

連携はパーソナルとパブリックの間から生まれる

笠尾敦司

コミュニケーションアーティスト

kasao@dsn.t-kougei.ac.jp

<http://www.facebook.com/akasao>



1 街並み絵巻プロジェクト <http://emaki.mailpaint.com>

戦後の闇市から続く思い出横丁で、店のオーナー、従業員、客、通行人に横丁の街並を描いてもらいながら、またその横丁に展示した作品を見ながら生まれるコミュニケーションを視覚化した作品。誰もが作品作りに参加できしかも、人に誇りたくなる作品に仕上がるのが特徴。



写真は絵になることで匿名性を獲得し半パブリックとなる

絵になると、本人はなんとなく自分と分かるが他人にはその人が誰か分からない、という半パブリックな状態になる。そのため個人の体験した思い出が他人と共有可能な魅力に変わる。そして、その思い出を長く残すためには基本的に変わらない場が必要になる。



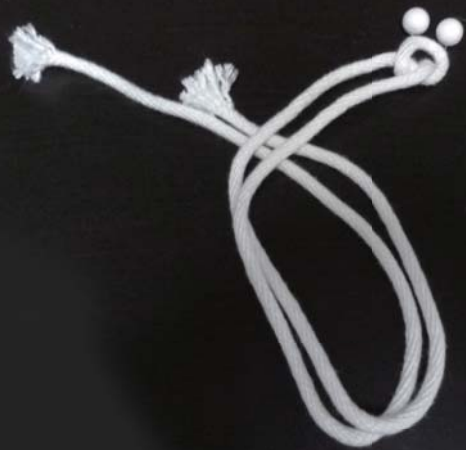
2 街を描いて街を知る - わが街再発見 <http://bit.ly/ycrFVu>

自分の家の近辺を描くという行為を通じて身近な街を再発見し、描かれた絵をグーグルマップ上に配置することで情報共有が可能。建物の記録写真はよくあるが、人のいない建物だけの写真は魅力がない。また、絵は良く見ないと描けないので、良く見ることによって生まれる発見も多く、共有もしやすい。



3 むすびめくん被災地連携プロジェクト <http://bit.ly/jqpExO>

むすびめくんを作ってメッセージを託すワークショップを被災地の避難所と東京を交互に行い一本のロープにむすびめくンを繋げて行くことで、永い支援を呼びかけるプロジェクト。個人の経験をむすびめくんが代わりに語ることで半パブリックな受入れ易い情報に変わる。(避難所が解消してから連携の核を失っている)。



ロープに発泡スチロールの目玉が付いているだけのひもの人形からさまざまな物が作り出せる。



4 むすびめくんデモ 人間は自然の一部であることを訴える

道具や物や子どもの気持ちになって「人間に一言」言うむすびめくんのデモプロジェクト。付喪神であるむすびめくんが傲慢な人間にたちに、普段言わない事、言えない事を公に主張しようという作品。ワークショップを行う毎にデモに参加する「むすびめくん」が増えて行く予定。



思い出の絵画

ここでたくさんの僕の
仲間が生まれたんだよ

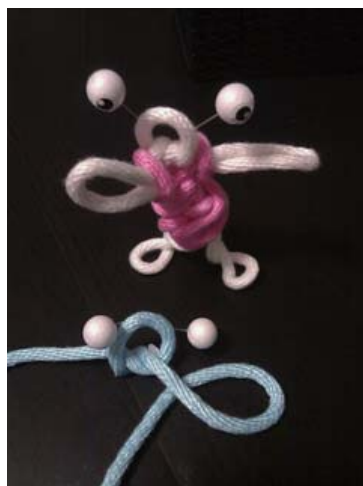


思い出のジオラマ

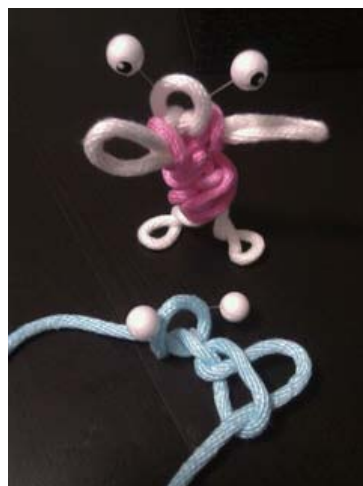
5 むすびめくんが語る 思い出美術館

全国からお集まりの皆さんが連携できるワークショップとして思い出美術館を企画しました。街の至る所には住んでいる人の思い出が刻まれています。その思い出の場所を**絵画**にし、その絵画を背景にむすびめくんが思い出を再現する**ジオラマ**も制作し、この**思い出絵画とジオラマを収蔵しているという想定です。**

左半身から作ります。まずは左手をつくりましょう。



1 輪を作ります。



2 その輪に前から後ろに向かって通します。



3 手の長さが長すぎないように調整します。

次に今作った左手の下に左足を作ります。



4 足も初めの方は手と同じ手順で作ります。

むすびめくんジオラマを作って、思い出を共有しよう。



続けて、左半身と同様に右半身を作りましょう。この半身までをあらかじめ作ってみなさんにお渡しします。

5 輪になった手と足ができました。



6 足の方は、さらに握りながら押し込みます。

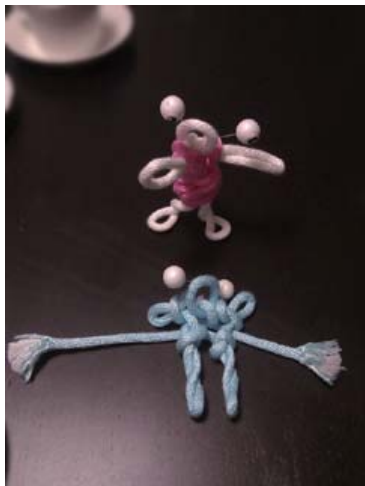


7 入れて引っ張りながら握じっても戻ってしまいます。



8 握じ込むには力が要ります。握じらずとも足にはなります。

これで、両半身ができました。次のページでは両半身をつなげて仕上げます。



9 残ったロープをそれぞれ左右から巻きます。



10 前で交差させて、また後ろへ回します。

これで右半身と左半身がつながりました。両半身合体成功。



11 最後に片むすびにして止めた後、形を整えます。

立たせてみよう。うまく立てるかな？

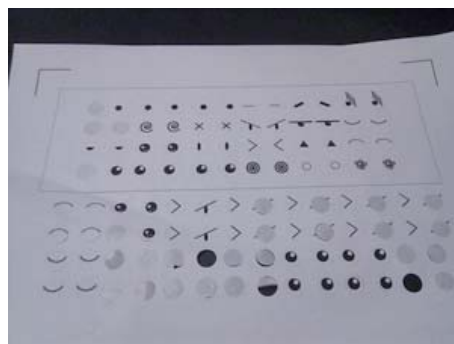


12 あれ、つま先立ちになってるね。くつを履かせましょう。

むすびめくんの作り方 <http://bit.ly/AtrL9G>



13 足を曲げて靴の部分を作ります。



14 目のシールを貼ります。フェルトペンで描いても OK。



15 ちょっとしょぼくれたむすびめくんが出来上がりました。

あまった紐を胸の中に押し込んで始末したら、むすびめくんのできあがりです。



16 余ったロープは胸の穴にまとめて入れてしまうと収まります。

目的: うまく描くことではなく絵にすることの効果を実感する。1 良く観察するため写真よりも新しい発見が多い。2 絵にすることで風景が新鮮に見えてくる。3 個人情報がかかり薄まる。4 写真よりも話しのネタにし易い。

1 描くための準備

水彩の下絵、彩色の見本、絵の具付き紙パレット、水筆と水の入った水入れ、ティッシュ、を用意してください。水筆は腹を押すと水が出てきます。この水で絵の具を溶いたり、筆に付いた絵の具を濡らしてティッシュで拭き取ってきれいにします。

2 足りない線を下絵に書き込む

下絵は特許を取得しているハイブリッド水彩下絵制作ソフトで作られています。縦横を水平垂直に合わせたり線を調整したりはしていますが、自然さを出すため完全な輪郭はあえて描いてません。そのため鉛筆で写真を見ながら多少線を足して頂く必要がある場合もあります。鉛筆は色を塗る場所を間違えないように当りを付けるつもりで行ってください。あまり強く描きこむ必要はありません。また、影を付けるためにハッチングなどもしてはいけません。影は暗い絵の具で付けます。芯は常に磨いで細くしておいてください。シャープペンシルなどもお勧めです。多くの場合は線を足さなくても塗ることで形が見えてきます。

皆さんの下絵と今回描いて頂く水彩を展示する [picasaweb](http://bit.ly/w59fKf) です。

絵を描きましょう 思い出の下絵 (<http://bit.ly/w59fKf>)

3 絵の具を塗る

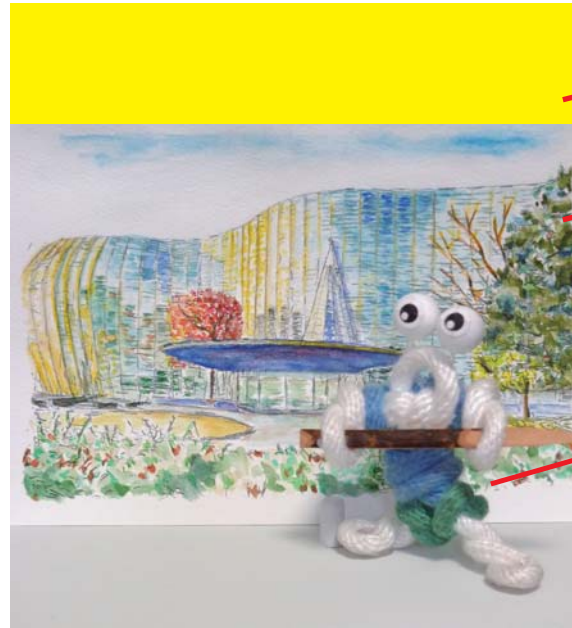
固形の絵の具は色が分かり難いので、ティッシュなどに付けて色を確認してください。また、見本の色はあくまでも参考です。この色を忠実に出す必要はありません。ご自身の色のイメージで塗って行ってください。色は、絵具を混ぜることで作り出すことができますが、多数の色を混ぜると濁ってしまうので、なるべく単色もしくは二色ぐらいの混色を基本にすると透明感のある彩色が可能になります。今回は時間がないためかなり多めの線を描いてありますので、ざっと塗って頂ければそれで雰囲気は出るようになっています。

塗りの注意点

絵の具に白はありませんので、紙色を残してください。失敗したらティッシュで叩くように吸い取ります。紙は水をすぐには吸い込みません。拭き取ったらやり直すことができます。薄い色から塗るときれいに仕上がります。

ジオラマを作って写真撮影をし、アップロードしてもらいます。

描いた絵を白い木製のスタンドに背景になるように粘着剤(ブルタック)で軽く固定します。そして、その絵の前にむすびめくンを好きなポーズにして立たせます。準備ができましたらスタッフにお知らせください。撮影して皆さんと思い出を共有できるようにツイッターにアップします。



このスペースに思い出を描いた紙を貼り付けます

描いた水彩画を背景として立たせ、ステージに固定します。

その前にむすびめくんを立たせて、あなたの代わりに思い出を語らせます。

後日、皆さんのジオラマを展示する picasaweb です。ぜひお送りください。

思い出ジオラマ (<http://bit.ly/zYQCOy>)

全員分を取り込むことは出来ないと思いますので、思い出水彩とむすびめくんはお持ち帰りいただき、完成後に思い出水彩の画像データ (200dpi 程度の jpg) とむすびめくんを配置した思い出ジオラマの写真 (デジタルデータ) をタイトル下のアドレスまでお送りください。皆様のデータを整理して写真共有サイトで見て頂けるようにしたいと思いますので、ご協力お願い致します。

もしも、同じ地域の人が集まってこの企画を行うと、自分の知っている場所に沢山の人の思い出が染み付いている事が分かります。面白いです。また、この作品が博物館や美術館に収蔵されていたら、街と人と館はつながるのではないかと思います。さらに、この思い出作品を核としたさまざまな連携を生み出すこともできると思います。

まとめ

連携の鍵となり得る作品群・ワークショップの特徴は「誰でも制作に参加でき、皆に見てもらえて、ちょっと自慢したくなり、時間と共に発展するが、いつまでも変わらない場所に収蔵されており、いつでも見に行ける」ということになります。

ご質問、ご要望等ございましたら、遠慮なくお知らせください。